

養気軒

ようきけん

『さわやかな笑顔と思いやりの心で、安心、安全な満足される医療をめざします』
そのために、患者さんは言うまでもなく全職員ひとり一人を大切にします。

086 着任のご挨拶

●ようきけんとは「病む人の病のみならず心をも癒すことの出来るところ」という意味です。

精一杯がんばります、宜しくお願いします!

Newly Arrived.

Monami
Yamanaka



着任のご挨拶

10月1日より、総合診療内科医として勤務しています山中萌奈美と申します。

初期研修は長崎大学病院と諫早総合病院で行い、これまで長崎医療センターで総合診療内科医として勤務していました。

私は長崎出身ですが、川棚にはあまり馴染みがありませんでしたので、周辺の探索を楽しみにしているところです。

おすすめなどありましたらご教授いただければ幸いです。

精一杯頑張ります。何卒、よろしくお願ひいたします。◀

(総合診療内科 医師 山中 萌奈美)



『感染対策について』

感染対策室

感染対策の基本は、『病原体に接触しない!』ことです。

1、手に付けない

手を洗う、アルコール消毒

2、マスク着用

口腔内吸引予防、粘膜付着の予防

3、ウイルスの居る所に行かない

3密の予防



現在、新型コロナウイルス感染対策として提唱されている内容には十分な意味があります。

もちろん個別に調べるとアルコールが効かないなどの特徴もあります。絶対大丈夫!という対策はありません。対策の積み重ねが重要です。

新型コロナ感染症の今後にも気になりますが、昨年流行が見られなかったインフルエンザなど、冬に流行する感染症やノロウイルスなどの感染性腸炎も流行する恐れがありますので、上記基本を忘れないよう対策をお願いします。



「一番きれいな病棟」を目指して

看護師長 穎川 俊也

4階病棟は、リハビリやADL拡大のため車椅子等に移乗しラウンジで食事を摂取する患者さんが多く入院しています。

患者数が多い場合はどうしても食事中に密な状態となることが多かったため、昨年度よりICNに相談しながらスクリーンやパーテーションの設置を行い、食事中の飛沫予防など感染対策に取り組んでいます。

また、患者さんが気持ちよく療養生活を送ることが

できるように、毎朝、スタッフ全員で患者さんのベッド周囲の環境整備を行い、特に今年度は、QC活動として患者さんの床頭台の整理整頓についても取り組んでいます。

コロナ禍で面会のできないご家族や患者さんが安心して入院できるような療養環境を提供できるようにスタッフ全員で「一番きれいな病棟」を目指して感染対策、環境整備を継続していきたいと思えます。



口腔ケアの充実を図っています

看護師長 藤並 慎之介

昨年、5階病棟は患者さんのご家族や施設などから口腔ケアの不足についてのご指摘をいただきました。今年度、“患者さんに信頼される、やさしく丁寧な看護”を



病棟目標に掲げて取り組んでいます。

口腔ケアは患者さんの清潔や安楽を目的に、また、肺炎など疾病予防の観点からも欠かせないケアとなります。院内では脳神経内科医師、言語聴覚士、看護師等多職種による口腔ケアチームが発足しています。

口腔ケアチームの一員である脳卒中リハビリテーション看護認定看護師は5階病棟に在籍しています。各職種の強みを活かし病棟全体で口腔ケアに力を入れ取り組んでいます。

ひとつずつ着実に、患者さん、ご家族に信頼される病棟づくりを進めていきたいと思っております。



いこいの場について

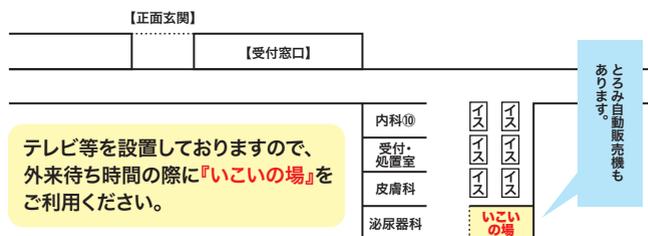
庶務係長 藤戸 寿教

当院の『いこいの場』をご存じでしょうか？『いこいの場』とは、患者さんの休憩スペースであり、テレビや空気清浄機、とろみ付き飲料が飲める自動販売機等を設置しており、診療の合間などに一息つける場所となっております。設置場所は正面玄関から入って左の泌尿器科・皮膚科診察室近くにあります。

2019年の開設以来多くの方に利用いただいておりますが、まだご存じでない方もいらっしゃるかと思います、今回ご案内させていただきました。みなさまぜひご利用ください。



《患者さんおよびご家族の皆さまへ》



コロナ禍における診療報酬改定について

経営企画室長 平野 正和

2022年度診療報酬改定の基本方針策定に向けた議論が、9月下旬に社会保障審議会医療保険部会で始まりました。例年通りであれば、12月上旬に基本方針の策定、2022年2月前半に中医協（中央社会保険医療協議会）が具体的な診療報酬点数の設定等について厚生労働大臣に答申する流れとなります。

今回はコロナ禍での改定となり新型コロナウイルス

感染症等の新興感染症等に対応できる医療提供体制を構築する視点を新たに盛り込むようです。

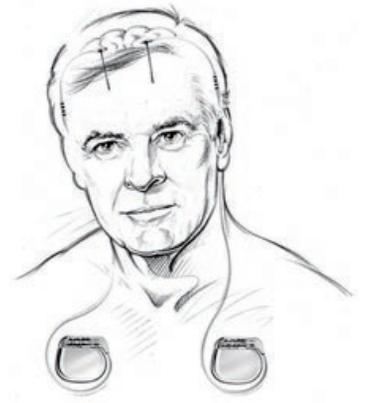
現在は新型コロナウイルス感染症に係る診療には特例的な対応や補助金での支援がありますが、それがどのように診療報酬に組み込まれるのか、入院基本料の施設基準に係る経過措置が再延長となる等、コロナ禍の影響は大きく、それを踏まえ大幅な改定は見送られるのか、今後も注視が必要です。

診療科紹介(脳神経外科)

神経センター部長 **戸田 啓介**

高齢化社会を迎えている我が国において、高齢者人口が多い長崎県東彼杵郡はそのモデルケースとも言えます。本地区では高齢者の脳卒中のみならず転倒による頭部外傷も増えており、地域の医療機関には急性期から慢性期の治療や、リハビリテーション、社会・在宅復帰に向けての調整や発症予防など様々な役割が求められています。当院では脳卒中や頭部外傷の様々な段階で、患者さんやご家族の要望に応える医療の提供を目指しています。

また西九州脳神経センターとして『てんかん』の診療および脳神経内科と協力して『パーキンソン病』『不随意運動』に対する「脳深部刺激療法 (DBS)」を行っています。『てんかん』に対しては「長時間ビデオ脳波同時記録検査」を導入しており、適応のある患者さんには「迷走神経刺激療法」など外科治療も実施しています。

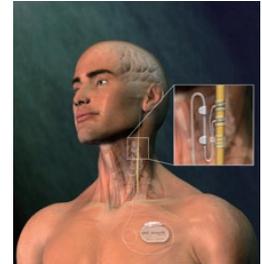


パーキンソン病に対する
脳深部刺激療法

お陰様で県北地区や、佐賀県からも患者さんをご紹介頂いています。今後とも患者さんのクオリティ・オブ・ライフ (QOL) の向上・維持を目指した医療を提供いたします。



パルスジェネレーター
VNS-G103 リード



植込みイメージ

薬剤抵抗性てんかんに対する迷走神経刺激療法

部署紹介(薬剤部)

薬剤部長 **小山田 純治**

薬剤部は、新病棟2階にあり薬剤師9名、助手2名が勤務しています。

主に入院患者さんのお薬に係る業務として、薬剤部内での調剤・抗がん剤の無菌調製や、病棟で入院患者さんに対する服薬指導(薬剤管理指導)や相談を受ける業務などを行っています。

病棟担当薬剤師が薬の効果や副作用などの症状は発現していないか、臨床検査値の影響などもチェックしています。特に肝臓や腎臓に障害がある場合はお薬の使い方に注意が必要です。

薬剤部では、医薬品の安全かつ効果的な使用を念



頭に置き、患者さんが安心して服薬できるよう薬物治療のお手伝いをしていきたいと考えます。

もし、お薬について分からないことや不安がある時は、いつでもお気軽に薬剤師に声をおかけください。

編集後記

地域医療連携係長 富永 文子

さわやかな秋晴れが心地よい季節になりました。実りの秋、読書の秋、スポーツの秋、やりたいことが増える季節、コロナ禍で過ごす2回目の秋です。病院も面会禁止で患者さんやご家族のご不自由や不安は計り知れないものだと思います。

当院では、第5波のコロナ感染拡大で8月6日からオンライン面会を一旦中止していましたが、10月より再開致しました。オンライン面会を通して、患者さんが

笑顔を見せ家族のことを心配する発言が、ご家族の不安を一気に晴らし流涙し安心される姿を目にすると、早く元通りの日常が戻ってほしいと願うとともに、「制限のある中で、何ができるかを考え行動していくか」を学ぶ日々でもあります。コロナ禍で迎える秋を目、肌、口、耳で堪能し、心も体も充電してこれから来る冬を乗り切りたいと思います。